

## 新技術を活用した屋外貯蔵タンクの効果的な予防保全に関する調査検討会（第3回）

### 【議事要旨】

#### 1 開催日時

令和8年2月27日（金）14時00分から16時00分

#### 2 開催場所

危険物保安技術協会 第一会議室及び第二会議室（対面方式及びWeb方式の並行開催）

#### 3 出席者（敬称略 五十音順）

座長 辻 裕一

委員 熊崎 美枝子、西 晴樹、野口 康幸、三原 毅、山田 實

#### 4 配布資料

資料3-1 新技術を活用した屋外貯蔵タンクの効果的な予防保全に関する調査検討報告書（案）

資料3-2 確認フローの検証結果について

資料3-3 交流電磁場測定法の検証結果について

資料3-4 交流電磁場測定法の屋外貯蔵タンク底部溶接部試験への適用について

参考資料3-1 交流電磁場測定法シミュレーション結果報告

## 5 議事

- (1) 資料3-1により事務局から説明が行われた。
- (2) 資料3-2により事務局から説明が行われた。
- (3) 資料3-3により事務局から説明が行われた。質疑は以下のとおり。

### 【委員】

各データの出力値について、多チャンネルのマルチプローブの出力値については、チャンネルの中で出力値が大きい箇所が記載されているのか。

### 【事務局】

そのとおり。

### 【委員】

溶接部のコーティング厚さの影響の検証結果において検出困難とあるが、実際の試験において検出困難となった場合の運用はどのようにするのか。

### 【事務局】

試験片においてきずの検出が困難となれば、実際の試験では当該機器は使用できないという運用を行う。

### 【委員】

今回の検証では、きずの位置を事前に把握している中で試験行っているが、実際はきずの位置が把握できていない状況である。また、石油タンクの重ね継手には、特有のきずが発生しやすいため、試験技術者に対する教育をしっかりと行い、検出漏れを防ぐことが重要である。

### 【事務局】

その点を含めて、技術者の教育について運用通知等を用いて周知していく。

### 【オブザーバー】

マルチプローブを走査する際、ACFMの熟練者はどのように走査しているのか。

### 【事務局】

今回の試験片の場合、下止端部が検出しにくい箇所であることを把握しており、下止端部を重要視し、プローブを走査している。

### 【オブザーバー】

事業所側で試験を実施し、きずが検出されなかった場合、正しく試験できているのか、又は検出漏れによるものなのかを判断する方法はあるのか。

### 【事務局】

基本的には渦電流探傷試験と同様に全てのタンクに無条件に適用できる試験方法ではなく、試験対象

の溶接部を模した試験片を作成し、その試験片の基準きずを検出できることが条件となる。

また、試験対象の溶接部に対して適切なプローブの選択をしていただくことが重要になると考えている。

**【委員】**

ACFMで検出不能により適用困難となった場合は、その他の非破壊試験と併用し、試験を行うようになるのか。

**【事務局】**

そのとおり。

(4) 資料3-4により事務局から説明が行われた。質疑は以下のとおり。

**【オブザーバー】**

試験で使用するACFM機器は、日本非破壊検査工業会で指定のものがあるのか。

**【事務局】**

基準きずが検出できる機器を使用することが重要であり、こちらから機器を指定することはない。

以上